

指定校番号	30023	学級活動	○ 児童会活動	クラブ活動	学校行事
-------	-------	------	---------	-------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立因島南小学校	校長	宇根本 久志	生徒指導主事	兼田 和佳
-----	------------	----	--------	--------	-------

**取組事例名** 『静と動を思考する児童の育成～児童会活動を通して～』

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性・積極性」	3	「課題発見・課題力」	1

**取組のねらい**『課題解決システムの充実と高学年のリーダーシップ』

- ・児童会が主体的に問題を吸い上げ、それに取り組み解決するシステムを充実させる。
- ・高学年のリーダー性を育て、それを下級生に伝えるなかで自校の校風の一つとする。

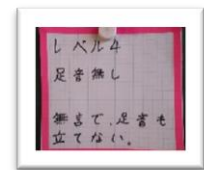
**取組の具体的内容**『話し合いの充実～問題解決の方向性や解決方法の明確化～』

- 学校教育目標「人間力を高める因島南小教育～静と動の融合が生み出す学びの充実～」  
→教職員：自己評価とリンク，具現化を目指す 児童会：区別を付けることができる学校（公約）
- 児童会の取組：「移動の5段階のレベル」の取組

①児童会が5段階のレベルを設定（前年度の成果と課題の分析を通して）



- ・レベル1：「声のものさし2以下」（授業中に班で話し合いをするぐらいの声の大きさ）
- ・レベル2：「声のものさし1以下」（授業中にとりよりの人と話をする声の大きさ）
- ・レベル3：「無言」（だれとも話をしない）
- ・レベル4：「足音無し」（話をしないことに加えて，足音も立てない）
- ・レベル5：「無音で右側通行」（話もせず，足音も立てず，右側を歩く）



②解決に向けての話し合い→解決方法の決定→実践

- ・代表委員会を通して取組の意義，目的及び取組方法の周知（共通理解，知識の習得）
- ・日常の授業で（グループ討議，ペアトーク等）獲得・習得した技能を活用し，行動様式を身に付ける。

【代表委員会での様子】



【解決方法の決定：各学級】



取組の意義：「移動中は他の学級の邪魔をしない」，「静かに掃除をする」→  
「時や場を判断して行動する」  
(○○だから○○すると思考する児童)

解決方法の決定：統一した協議用シートを活用，学級会のスタイルを全学級で統一し話し合い活動を展開

**【行動様式を身に付ける工夫：習得した技能の活用】**

〈レベル1・2の習得〉

〈時を判断①：毎時間の黙想〉

〈時を判断②：凜とした互礼〉



グループトークでレベル1を  
ペアトークでレベル2を体感

授業毎に黙想をし、集中すべき  
時を体感

凜とした互礼で授業を始め  
同様に終わる。(授業での行動様式)

**【決めたことの実践】**

**【振 り 返 り】**



本部役員の取組



各学級の取組



ボランティアの出現

- ※合意形成を図る
- ※課題解決に向かう力
- ※協働する力

- 〈児童朝会で学期の取組を振り返る〉
- ※現時点の実態を共通認識
- ※成果と課題を共通認識し、新たな課題の発見に繋げる。
- 本質的な問題の解決、次の課題へ

**取組の課題・創意工夫『行動様式のイメージを持たす』**

- ・児童はレベル1（声のものさし2以下）と言われても、イメージは湧かない。日常の授業（グループ討議、ペアトーク等）で徹底させることにより獲得・習得できた技能（黙想や凜とした互礼の中で時や場によって区別を付ける力）を活用し、行動様式をイメージ化させたことは取組に有効的に作用した。
- ・課題意識を明確に持たせる工夫として、①実態を把握させること②それを改善させることの意義を自分との関わりの中で整理させることを全学級で取り組んだ。そうすることにより、話し合い活動が活発化した。

**取組の成果（効果）『定期的な振り返り～結果の分析と新たな問題提起～』**

- ・児童と課題を共有し、実行のための計画（方策の思考）、振り返りを意識付けることを大切にした。このことは児童の主体性をより高めていくことに繋がった。
- ・児童会の取組として、月間生活目標としても取り上げた。各学級は実践や取組を定期的に振り返ることにより意識を高めた。その結果、ボランティアが主体的に活動し、課題解決に向かう機運が高まった。

**今 後 の 展 開『合意の形成の工夫』**

- ・議題に対して協議する場面では、賛成や反対意見を出し合い懸命に協議する態度は観られるようになったが、納得がいけない児童がいた時にどのように折り合いを付けて、合意を形成していくのか明確にする必要がある。

**他 教 科 と の 関 わ り『学んだ知識や技能の活用し、問題を解決』**

- ・体験したことや国語科及び道徳科の時間に深めた価値を基に自分の意見や考えを発信することで話し合い活動の充実が図られた。SSTを意図的、計画的に実施することで人間関係形成能力が向上した。